

アグリ★ルネッサンス

農業経営きょうと

No.104
2019.春

岡崎農園 イチゴ狩りのシーズンに備える 岡崎浩和さんと母・貴美子さん

CONTENTS

クローズアップ この経営者！…………… 2 ページ
直販と観光農園と二代目、頑張る
— 春はイチゴ狩り、夏はモモ狩り —
岡崎農園（京丹後市丹後町）

チャレンジ農業法人…………… 4 ページ
こだわりの「山城のねぎ」多くの消費者へ届けたい
— ねぎ「一本」、売り上げ 1 億円をめざす —
株式会社 秋田農園（木津川市山城町）

京都府農業経営相談所開設…………… 6 ページ
平成30年度京都府京力農場づくり推進大会 開催 …… 6 ページ

農業簿記講座・農業法人設立講座 開催…………… 7 ページ
■ 法人会計・パソコン農業簿記講座
■ 収入保険制度
■ 農業法人設立講座

農業法人ニュース…………… 8 ページ
こと京都（株）平成30年度農林水産祭天皇杯受賞
— 京都府農業法人経営者会議の取り組み —
■ 京都府農林水産部、近畿農政局との情報・意見交換会

編集局から…………… 8 ページ

クローズアップ

この経営者！

直販と観光農園と 二代目、頑張る

——春はイチゴ狩り、夏はモモ狩り——



「父が築いた経営基盤があったから」と岡崎浩和さん

京丹後市丹後町 ・ 岡崎農園

岡崎 浩和さん(41)

岡崎浩和さんが代表を務める岡崎農園では、丹後コシヒカリ、イチゴ、モモ、メロン、ブドウ、スイカなどを栽培しており、2019年1月、正式に経営継承した。日々の作業は、浩和さんが米とイチゴ、メロンなどの野菜栽培、両親はモモ、ブドウ栽培を受け持つ。「食卓にひとつ笑顔を増やせるような農産物づくり」が浩和さんのモットーだ。

イチゴ栽培が大きな転機に

岡崎農園は、浩和さん(41)、父・孝夫さん(66)、母・貴美子さん(68)の家族労働と、従業員の北垣竜也さん(45)、それにパート5～10名の雇用労働力をフルに活かして、水稲8ha、露地野菜(メロン・ネギ・ブロッコリー等)2.5ha、施設野菜(イチゴ・トマト等)35a、果樹(モモ・ブドウ等)70aを経営している。

浩和さんは、税理士事務所を退職した後、後継者として府立農業大学校で学び、23歳のときに就農した。

「農業をやる以上、なにか新しいことを始めよう」と、



岡崎農園は平成元年、モモのオーナー制度から始まったモモの木の剪定作業をする 父・孝夫さん(左)と浩和さん

さっそくイチゴ栽培に挑戦。栽培技術が安定した7年前から販路の拡大に本腰を入れ、現在ではイチゴ・モモ・ブドウ・メロンなどを京都市内や他県の百貨店やスーパーなどへの販路を徐々に拡大、年間を通して収入が安定するよう栽培品目を巧みに組み合わせながら、ほぼ全量を上回る。

浩和さんはその秘訣を「マーケティングに関する様々な勉強会で販売のノウハウを学び、商談会で実践する。この繰り返しで営業への苦手意識が払拭できました」と明かす。

当初、父の孝夫さんはイチゴの導入に「そこまで手が回らない」と反対したが、「いまでは親子で異なる作業を手がけていることが、経営をうまく回していく秘訣の一つになっている」と浩和さんはいう。

“笑顔を増やす”農産物を

農園の始まりは、平成元年ごろにさかのぼる。国営開発農地の整備が進むのを契機に、父の孝夫さんが兼

業をやめて農業に専従。当時、JAや普及センターが積極的に取り組んでいたモモのオーナー制度を導入した。メディアで取り上げられたこともあり、最盛期には桃生産組合で延べ1,000本のオーナー木を持っていたが、時代の流れとともに消費者の嗜好も変化し、オーナー制から小売り主体へと経営転換した。

父は果樹、息子は米・野菜と二人がそれぞれの作目を生産、互いに切磋琢磨し、そんな父子を母が絶妙な間を取り持つ。「自分は2代目で、父が築いてくれた経営基盤があったからこそ、チャレンジすることができた。だから自分も頑張る」と浩和さん。親子の絆が農園をしっかりと支えている。



「食卓にひとつ笑顔を増やせるような農産物づくり」をめざす
(左から母・貴美子さん、浩和さん、父・孝夫さん)

海外からも人を呼び込む

主力作物の1つ、イチゴの品種は「紅ほっぺ」、「章姫」、「かおりの」。2年前からイチゴ狩り（3月中旬～5月中旬）を始め、「30分食べ放題」や収穫体験が人気を呼び、夏はモモ狩り（7月中旬～8月中旬）も行っている。

また、国内外から京丹後を訪れる観光客に癒しと感動を届ける「京丹後龍宮プロジェクト」にも参画、海外（タイや香港など）からの観光客が増え、海外のバイヤーも岡崎農園を訪れることもある。

これからは観光農園の商品ラインナップをイチゴ、モモ以外にも拡充するとともに、イチゴの品種も増やそうと、5年前から常雇いを採用。「今後10年で次世代の岡崎農園を担う人材確保と育成に取り組んでいきたい」浩和さんはそんな青写真を描く。



農園を担う人材も欠かせない(左は従業員の北垣竜也さん)

条件不利地域を支える

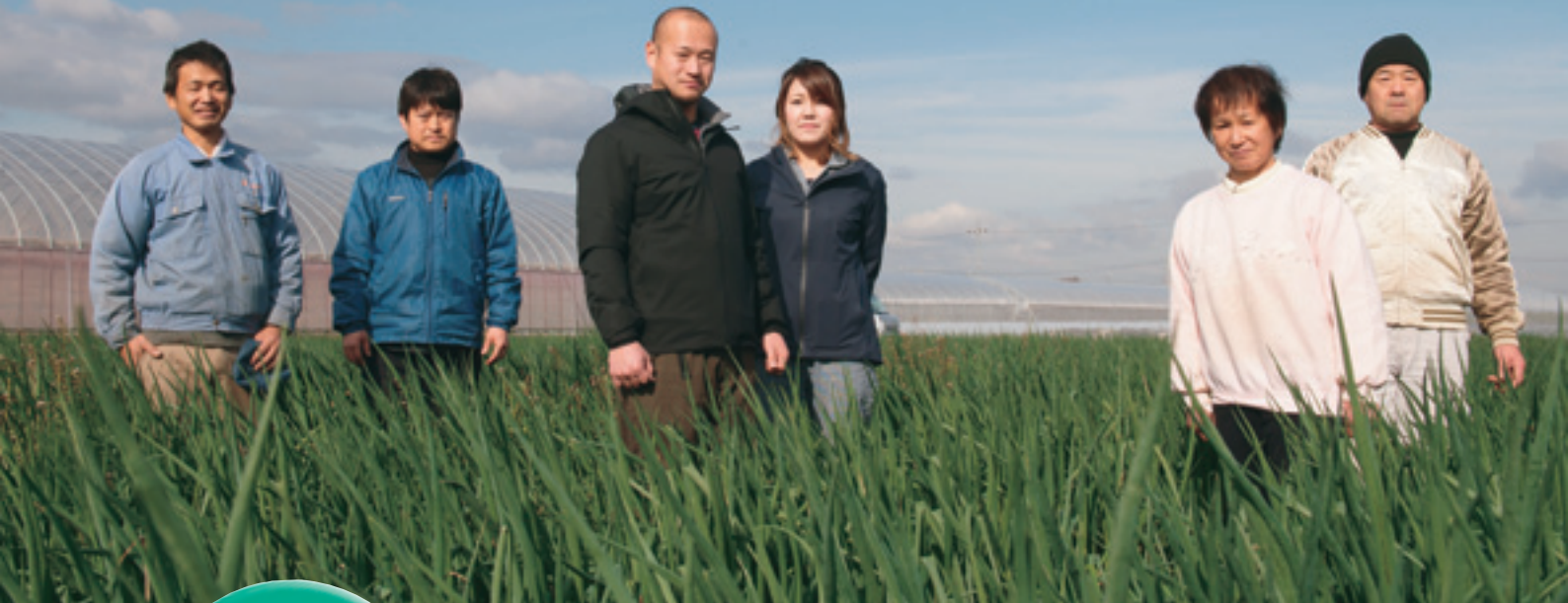
年々、イノシシやシカによる獣害が深刻化するなか、近隣の農業者とともにわな猟免許を取得し、アライグマ、ハクビシンなどの駆除にも取り組む。さらに、京丹後地域の若手農業者20名ほどが集う勉強会・研修会に参加し、マーケティング手法や雇用管理などの経営知識の習得にも意欲的だ。

就農時、水稻は60aだったが、地域の担い手不足や高齢化が進み、作業受託や全面委託を希望する農家が増えたため、現在の水稻規模は10倍以上の約30戸・8haに拡大。「これからもできる限り地域の農地を預かっていきたい」と浩和さん。その背景に、直販や観光農園の導入など意欲的な取り組みを通じて、周囲の大きな信頼が寄せられていることは言うまでもない。



獣害駆除へのワナを仕掛ける

こだわりの「山城のねぎ」 多くの消費者へ届けたい — ねぎ「一本」、売り上げ1億円をめざす —



(株)秋田農園を支えるスタッフ
左から森さん、宮代さん、秋田佳英さん、まいさん夫妻、母・由紀美さん、父・耕司さん

株式会社 秋田農園

木津川市山城町

- 代表取締役 秋田 佳英
- 設立年月 2018年3月
- 資本金 300万円
- 労働力 家族4名(夫婦・両親)、社員3名、パート雇用4名
- 機械設備 トラクター1台、播種機1台、定植機、ねぎ洗浄機・袋詰め機各2台など
- 事業内容 「青ねぎの周年栽培と加工品開発」
青ねぎ生産：3ha（露地2.4ha、施設0.6ha）
その他事業：青ねぎの加工品、タケノコ25a

可能性を試し経営を拡大

京都のネギといえば、誰もがブランド京野菜「九条ねぎ」を思い浮かべるが、秋田農園ではあえてその看板を外し、地元山城町の名を冠した「山城のねぎ」と命名して販売、九条ねぎに負けないブランド野菜をめざしている。

代表取締役の秋田佳英さん（34）は、ねぎ農家の二代目で、大学の農学部を卒業後、実家で就農した。父・耕司さん（61）が青ねぎの周年栽培の先駆者ということもあって、就農当初は「親が築いた経営基盤があり、何も考えず親の真似事ばかりしていた」という。

そんな中、東京でのセミナーを通じて全国各地の若手



データの収集や分析を行い、品質管理を進めていく

農業者に出会ってから、自分がいかに恵まれた環境にいるのかを知り、「若い自分がどこまでやれるか可能性を試

してみよう」と決意。その後、経営面積を就農時の1.5倍に拡大し、2016年に譲り受け、昨年、法人化を果たすなど着々と経営を軌道に乗せてきた。

安定供給へ栽培管理を徹底

「山城のねぎ」の販路は、市場との契約栽培が6割、残り4割はスーパーなどへ直接出荷している。

周年栽培を支えているのが、徹底した栽培管理と栽培技術の改良だ。大量生産でありながら、作業性や採算重視ではなく、秋田さんはねぎの風味、荷姿、日持ちにこだわる。圃場の一筆ごとに、播種から収穫に至るすべての作業を記録、累年比較をしたうえ、収量の安定化と高単収化をめざすとともに、地元特産の茶堆肥の利用を試みるなど、研究に余念がない。

その中で懸案となっているのは、冬場の収量をどう安定的に確保していくか。「年間を通じて安定して生産し、一定量を販売する。ブランドを定着させていくには、生産量を多くし、消費者へ届けるしかない」と秋田さん。今後はスーパーとの契約栽培も検討しており、「売上高1億円」を目標に掲げる。



父・耕司さん(左)はねぎづくりの師匠でもある

農業者として、経営者として

秋田農園のモットーは「会社の成長によって、秋田農園に関わる全ての人が、モノ・ココロの両面において豊かでありたい」。法人化に踏み切ったのも、従業員の福利厚生や労働環境・休日設定など細かなケアが欠かせないと考えたからである。

しかし、「生産・販売の仕組みについては確立しつつあるが、経営のかじ取りというレベルにはまだまだ…」



「会社の成長によって、秋田農園に関わる全ての人が、モノ・ココロの両面において豊かでありたい」

と自己評価は厳しい。賃金体系、人事評価など会社組織として改善していかなければならないことは多いという。

現在、秋田農園では3名の社員が働いており、今年中にはベトナムから2名の技能実習生も加わる予定だ。

知名度アップへ加工品も

加工品づくりにも力を入れている。パスタやご飯、パンに合うものというコンセプトで6次産業化を進め、パスタ向けの商品がねぎとニンニクの風味を生かしたソース「ねぎペース」(平成29年度「京の食6次産業化コンテスト特別賞」)。ご飯向けには「ねぎ味噌」、パンやクラッカーには「ねぎジャム」がある。

「ねぎは薬味のイメージが強いけど、本来のおいしさ、風味を味わうには、何ととっても切りたてが一番。工夫次第でメインになる食材になるんですよ」と妻のまいさん(32)。料理レシピを包装に同封し、包丁で切るという手間をかけてでも、食べたくなくなるようなねぎメインのメニューを夫婦で検討中だ。

もともと「山城のねぎ」の“名付け親”は父の耕司さん。「近隣の生産者と協力して、地域を盛り上げていきたい」。秋田さんの挑戦は始まったばかりである。



◀「ねぎの可能性を広げる」加工品の開発製造を積極的に進めます。平成29年度京の食6次産業化コンテスト特別賞受賞の「ねぎペース」(緑)と「ねぎジャム」、「ねぎ味噌」

▼宮代さんと佳英さん、将来やりたいことを考えていることが一番楽しい！



京都府農業経営相談所開設

「農業経営」の疑問、不安、お困りごとについて 「どんなこと」でも農業経営相談所にご相談ください！

（一社）京都府農業会議に「京都府農業経営相談所」を設置し、経営意欲のある農業者が、創意工夫を生かした農業経営を展開できるよう、農業者の経営課題に対し関係機関と連携して適切なアドバイスをする農業経営相談体制を整備し、経営相談、専門家派遣等を実施しています。

多くの農業者の方々の利用をお待ちしています。

「重点指導農業者」になりませんか？

▶「重点指導農業者」とは

意欲ある農業者の経営改善を図ることを目的に、普及センターや市町村の協力のもと支援対象となる担い手等の了解を得て、京都府農業経営相談所が「重点指導農業者」として位置づけ、農業者の経営課題に応じた相談対応や指導、支援を重点的に行います。

▶経営改善支援の流れ

農業経営の知見を有する中小企業診断士等を派遣し、農業者が抱えている、課題解決へ向けて支援します。

①課題の抽出⇒②その課題の改善に向けた支援策の提案⇒③専門家の派遣 を無料で実施します。

お問い合わせ・申し込み先

京都府農業経営相談所（一社）京都府農業会議内 TEL：075-417-6847 FAX：075-417-6870

平成30年度 京都府京力農場づくり推進大会 開催

京力農場づくり推進大会に約470人集う

2月1日（金）ガレリアかめおかで「京力農場づくり推進大会」が開催され、自らの地域農業を考えるため、集落農業組織の関係者や農業委員会委員、JA、行政関係者など、約470人が参加しました。

基調講演では、兵庫県篠山市役所の農都創造政策官・森本秀樹氏が「持続できる担い手を目指して～集落営農の考え方と進め方～」と題して、農業改良普及員として活躍されていた多様な事例を紹介いただきました。

「集落営農」とはみんなでこれからの農業を考えることで、経営として安定した収益性、集落全員が参加する社

会性、後継者が生まれる継続性が必要であり、法人化するメリット・デメリットの整理と、法人化を考えるタイミング等について提起されました。

その後、「集落内外の力で進める地域農業の活性化」をテーマに、京都大学大学院准教授北野慎一氏をコーディネーターにパネルディスカッションを開催。

基調講演を頂いた森本秀樹さん、福知山市農事組合法人かわい土佐祐司代表理事、京丹波町竹野活性化委員会産業部会山田進部会長、株式会社京都ものがたり関ナレ取締役らがパネリストとして、それぞれの設立経過や地域での取り組み内容等事例を紹介いただきました。



基調講演…兵庫県篠山市農都創造政策官 森本秀樹氏



パネルディスカッション
左から関さん、山田さん、土佐さん
森本さん

● 農業簿記講座・農業法人設立講座 開催 ●

法人会計・パソコン農業簿記講座

12月5日・6日京都府立農業大学校で、12月19日・20日京都府田辺総合庁舎で農業簿記講座を開催。農業経営者や集落営農組織から延べ55名の参加がありました。

青色申告は、今年度から始まった「収入保険」への加入条件であり、パソコンによる農業簿記は伝票処理や減価償却処理等手間のかかる処理をパソコン処理され、蓄積されたデータは農業経営に取って重要な経営戦略資料(未来管理・現在管理・過去管理)となります。

また、消費税の軽減税率制度の導入も予定されており、



パソコン農業簿記講座受講風景

農業経営にとって、ますますパソコンによる農業簿記導入が重要となってきます。

■ 収入保険制度 ■

リスク対策は万全ですか？

気象災害、価格変動など農業経営には様々なリスクがあります。

これらのリスク対策として国が実施する様々な制度はご存じでしょうか。

気象災害など生産段階におけるリスクには「農業共済」が、価格変動などの経営段階におけるリスクには、「ナラシ」や「価格安定対策」などの制度があります。さらに生産・経営の全般を補てんするのが「収入保険」です。

収入保険に加入するためには、青色申告による収入金額が基本となります。今後、収入保険の加入をお考えの方は、先ず青色申告に取り組んでください。

これからの様々なリスクに備え、無保険とならないように各種制度をご利用ください。

収入保険制度については、NOSAI京都にお問合せください。

農業法人設立講座

1月16日・17日京都府田辺総合庁舎で、1月22日・23日南丹市国際交流会館で農業法人設立講座を開催。延べ55名の参加があり、専門家(税理士・司法書士・社会保険労務士)から、農業法人の設立手続、税務処理、会計処理、雇用・労務管理のポイントについて研修しました。

府内では現在約360の法人があり、年間約20法人が設立されています。

税金対策、人材確保、雇用管理、農地集積、融資対策等、農業経営を行っていくうえで農業法人設立を検討されておられる皆様には「京都府農業経営相談所」(6ページ)の専門家派遣等を通じて支援をさせていただきます。多くの皆様の活用をお待ちします。



農業法人設立講座受講風景

農業法人

ニュース

— こと京都(株)平成30年度農林水産祭天皇杯受賞 —

1月21日(月)、京都ホテルオークラで、こと京都(株)「平成30年度農林水産祭天皇杯受賞祝賀会」が開催されました。

こと京都(株)は、栄えある平成30年度農林水産祭天皇杯(多角化経営部門)を受賞され、11月23日(金)明治神宮会館において天皇杯を賜られました。

京都府農業法人経営者会議が発起人となり、今回の祝賀会を開催、多くの方がお祝いに駆けつけられました。

天皇杯とは

過去1年間(平成29年8月～平成30年7月)の農林水産祭参加表彰行事(約300件)において、農林水産大臣賞を受賞した約500点の中から特に業績のあった最優秀者に授与されるものです。各賞は、農産・畜産部門、畜産部門、園芸部門、林産部門、水産部門、多角化経営部門、むらづくり部門の7部門。

こと京都(株)は平成29年度優良経営体6次産業化部門において農林水産大臣賞を受賞され、平成30年度農林水産祭「多角化経営部門」において天皇杯を受賞されました。



来賓祝辞：西脇京都府知事



発起人代表 山崎副会長挨拶(左)

— 京都府農業法人経営者会議の取り組み —

■京都府農林水産部、近畿農政局との情報・意見交換会

8月8日、京都府農林水産部と、11月6日、近畿農政局と経営者会議会員等との情報・意見交換会を開催しました。今後も定期的に開催しますので、多くの会員の皆様等の参加をお待ちしています。

■京都府農林水産部との情報・意見交換会：8月8日

会員／13名参加

「京都府農人材確保・育成の取組」「外国人農業支援人材の活用」について情報提供をいただきました。その後の意見交換では気象災害への対応、集落営農組織の高齢化対策、災害復旧対策への対応、農地集積、荒地地再生、人材不足、人材研修等について、多くの意見交換が行われ現場の実情を直接伝えることが出来ました。



京都府農林水産部との情報・意見交換会

■近畿農政局との情報・意見交換会：11月6日

会員／15名参加

「平成31年度農林水産関係予算概算要求の概要」
「スマート農業の概要」
「京都府における国家戦略特区(外国人材受入)の概要」
「地理的表示(GI)保護制度の概要」
「農林水産物・食品の輸出促進対策の概要」
「HACCPの制度化とこれを巡る現状」

について、情報提供をいただき、意見交換会では「平成31年度農林水産関係予算」や「外国人材受入」等、提供いただいた内容についての意見が多く出されました。



近畿農政局との情報・意見交換会

編集局から

◆昨年は西日本豪雨、相次いで発生した台風被害等で多くの農業者がダメージを負いました。被害に遭われた皆様の1日も早い復興をお祈り申し上げます。
◆京都府内の農業経営者が課題としてあげるのが人材の確保・育成と農地の確保です。

人材確保では、4月から施行される改正入管法によって、新たな

外国人材の受入制度が創設されます。

◆今回は京丹後市で複合経営をしている岡崎農園と木津川市で、ねぎの周年栽培をしている(株)秋田農園を取材させていただきました。お二人とも、自分の農産物の生産に、しっかりとした考えをもって農業経営をされています。

課題は、人材の確保。今後、益々の活躍を期待しています。

発行／2019年3月

発行者 (一社) 京都府農業会議(京都府担い手育成総合支援協議会事務局)

〒602-8054 京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 京都府庁西別館内 TEL.075(417)6847